

# 関東地方の「電気ゆかりの地を訪ねて」目次

vol.	タイトル	年号	区分
1	日本で初めて電気の光が灯ったところ「工部大学校の講堂」	明治 11年 (1878)	需要
2	一般の人が見た初めての電気のひかり「東京銀座通電気燈」	15年 (1882)	需要
3	日本初の電動エレベーター「浅草凌雲閣」	23年 (1890)	需要
4	日本初の「電気事業会社開業の地」	19年 (1886)	供給
5	電気事業開業時の5箇所の発電所「電燈局」	20年 (1887)	供給
6	日本初の配電線による電燈供給「第2電燈局」	20年 (1887)	供給
7	銀座の電燈供給の始まり「第3電燈局」	21年 (1888)	供給
8	初めての営業用白熱灯「鹿鳴館」	20年 (1883)	需要
9	わが国初の電信機工場「田中工場」	8年 (1875)	工場
10	初めての白熱電球製造「白熱舎」	23年 (1890)	工場
11	わが国初の電気機器製造会社「三吉工場」	16年 (1883)	工場
12	わが国初の通信機器メーカー「明工舎」	14年 (1881)	工場
13	電線製造黎明期の専門メーカー「山田電線製造所」	17年 (1884)	工場
14	わが国の電線製造黎明期のメーカー「藤倉電線所」	18年 (1885)	工場
15	小形三相誘導電動機の標準化「明電舎」	30年 (1897)	工場
16	神奈川県初の配電線による電燈供給「常盤町火力発電所」	23年 (1890)	供給
17	栃木県初の配電線による電燈供給「日光発電所」	26年 (1893)	供給
18	群馬県初の配電線による電燈供給「植野発電所」	27年 (1894)	供給
19	静岡県初の配電線による電燈供給「熱海発電所」	28年 (1895)	供給
20	山梨県初の配電線による電燈供給「芦川発電所」	33年 (1900)	供給
21	埼玉県初の配電線による電燈供給「川越火力発電所」	37年 (1904)	供給
22	千葉県初の配電線による電燈供給「千葉発電所」	40年 (1907)	供給
23	茨城県初の配電線による電燈供給「上市発電所」	40年 (1907)	供給
24	内国勧業博覧会での「日本初の電車運転」	23年 (1890)	需要
25	関東初の営業電車運転「大師電気鉄道」	32年 (1899)	需要
26	日本初の本格的な水力発電「間藤電気原動所」	23年 (1890)	供給
27	日本初の国産機器による電燈供給「湯本湯端発電所」	25年 (1892)	供給
28	集中発電所からの一括送電「浅草発電所」	28年 (1895)	供給
29	日本初の蒸気タービン発電所「千住発電所」	38年 (1905)	供給
30	大規模水力開発と長距離高圧送電「駒橋～早稲田」	40年 (1907)	供給
31	東京大正博覧会での「日本初のエスカレーター運転」	大正 3年 (1914)	需要
32	東京・有楽町一丁目「日本電気協会関東支部の地」	10年 (1921)	需要